

特集 「Welcome to the World of Color Science: 色彩学の体験授業・導入教育事例」
 Special Issue: Welcome to the World of Color Science: Publishing and archiving of trial lectures on color science

『教えて！色彩先生』動画による色彩教育の企画と効果

Studying Chromatics with Animation "Oshiete! Shikisai-sensei"

山中 雄市

Yuichi Yamanaka

公益社団法人色彩検定協会

Shikisai-Kentei Inc.

キーワード：色彩検定、色彩学、動画コンテンツ、教育、声優

Keywords : shikisai-kentei, chromatics, animation, education, voice actor



図1 『教えて！色彩先生』メインビジュアル

『教えて！色彩先生』シリーズ（以下、色彩先生）は色彩検定の勉強を楽しくサポートする動画コンテンツとして、2022年よりスタート。2024年現在、3級編『教えて！色彩先生』、2級編『もっと教えて！色彩先生』、色のユニバーサルデザインについて扱うUC級編『教えて！色彩先生 UC』の3シリーズを開発している。「色彩学園」を舞台に個性豊かなイケメン・イケボ（イケてるボイス）の講師たちが色彩検定公式テキストの難関箇所をわかりやすく解説してくれるというものである。公開と共に大変な反響をいただき、2024年にはついにアニメグッズ販売の雄「アニメイト」池袋本店にて同シリーズのグッズ販売、期間限定のキャンペーンが行われ、名実ともに色彩検定を代表するコンテンツにまで成長した。ありがたいことにこの度、色彩先生について寄稿する機会をいただいた。本稿では色彩先生が生まれた背景やその特徴、効果、想定される使い方などについて、SNSで投稿された意見、受検者に対し実施したアンケートの結果などを用いながら記す。

1. 『教えて！色彩先生』誕生の背景

同シリーズは単に流行りものを集めて、いわゆる「バズり」を狙ったものではなく、かなり深刻な「課題」と、「明確な目的」があつて制作に至っている。まず

はその「課題」を共有するために、色彩検定で学習する内容について説明したい。色彩検定は色彩についての基礎知識や配色によるイメージの表現、現場での知識の応用といった内容を学習する検定試験である。経験や勘といったものに頼らない、知識の土台を形成することを目的としており、色の三属性や色が見えるしくみ、PCCSなどの表色系といった基礎項目から、照明、配色技法など実践的な知識までを学習する。

さて、色彩検定協会では「色」を学習するにあたり、その根本をしっかりと理解することが肝要であると考えている。そのため公式テキストには「可視光とは」「眼球の仕組み」「照明」など、一見色の勉強と関係がなさそうな、物理や生物の授業で学習する「科学」の内容を多数収録している。ところがこの内容こそが「配色を勉強したい」「ファッションの色彩について学びたい」と考えテキストを開いた人にとって、とてつもない「ギャップ」として捉えられてしまい、モチベーションの大幅低下、ひいては離脱してしまう現象を招いていた。X（旧Twitter）に投稿されたつぶやきでもその現状を垣間見ることができる。「色彩検定」と検索すると、「勉強が楽しい！」「役に立ちそう！」という声がある一方、

- ・3級の勉強をしているけど、テキストの最初の方が科学で面白くない！
- ・1nmは10億分の1mとか覚えないとだめなの？ 2ページ目にしてそっ閉じレベル。

などのような意見を度々目撃する。この高いハードルをいかに越えてもらうかは、学習者・指導者の頑張りや工夫に頼っていたというのが正直なところである。

そんな中、解決策の糸口は意外なところから見つかった。先述のXで「色彩検定」に関連する投稿を検索していると、興味深い投稿を見つけた。

- ・色彩検定の内容は理数系の要素があり勉強が難しい。テキストの文章をいい声の声優さんが読んでく

れたらもっと頑張れそう。

という主旨のものである。それまでXで見ていた投稿と一味違うところは、難しいと感じた学習内容に対し、ご自身で解決法（テキストの文章をイケボの声優さんが読んでくれているつもりになる）を見出しているところにある。昨今はスマホやインターネットの普及により、動画や音声コンテンツが急速に市民権を得ている。学習のハードルを下げたり、モチベーションに繋がったりするという面で資格試験こそ積極的にこのような媒体を活用していくべきであると常々思っていたところであり、良いタイミングで良い投稿にあったものである。

というわけで、「教えて！色彩先生」の原案が誕生した。会議室でアイディアをひねり出すという形ではなく、SNSの投稿で課題を見つけ、SNSの投稿で解決策を得たという、まさに「令和」のコンテンツなのである。

2. 『教えて！色彩先生』企画の詳細

Xの投稿をヒントに「良い声」の要素を盛り込むことは決まっていた色彩先生だが、学習者のモチベーションを最大限に引き出せるよう、更に内容の充実を図る必要があった。ここからは企画の詳細について紹介する。まずは企画の目的として以下の2点を掲げた。

・企画の目的

(i) 色彩検定受検者の学習意欲を向上させる

色彩検定合格に向けて頑張る受検生のモチベーションを向上させる。特に「色彩先生誕生の背景」でも紹介した科学要素を含むような難しい単元を学習する際のやる気アップに役立てもらう。

(ii) 新規受検者の獲得、色彩学への興味関心醸成

今まで色彩検定や色彩学を知らなかった、または関心があったが学習するまでには至らなかった層へアプローチする。

・メインターゲット

次に、「どの層」へ届けるのか、ターゲットを決定した。色彩検定の受検者層を分析すると、まず性別では約8割が女性で、そのうち8割が10代～20代である。受検者全体の6割が10代～20代の女性というわけだ。この傾向は少なくともこの20年変わっていないことから、メインターゲットを10代～20代の女性とした。

目的とターゲットが決まれば、次はその目的達成に向けた内容の具体化である。

・動画の構成

単にテキストの内容を音声や動画で焼き直すのではなく、エンタテインメント要素を加えることで楽しく学習してもらえるコンテンツにしたかった。メインターゲットが10～20代女性ということで、いわゆる「乙女ゲー（女性向け恋愛シミュレーションゲーム）」のようなストーリーや画面構成を取り入れた。



図2 『教えて！色彩先生』第1話

視聴者自身は「色彩学園」に通う学生であるという設定で、（現実ではご法度であるが）授業を担当する先生達からの熱烈アプローチを受けるのだが、打って変わって授業内容はかなりしっかりとした色彩学（図2）。相当尖った設定であるが、受検者以外の新規層へのアプローチを考えると話題性も必要であることから、資格試験+乙女ゲーという前代未聞の組み合わせは強烈な武器になると考えた。ちなみに、画面の構成やBGMなどはあえて恋愛ゲーム黎明期のような「ちょっとダサい」「ベタ」さを出してもらった。なんとなく懐かしさを感じる方も多いのではないだろうか。

・登場キャラクタ

(i) イラストレータの選定

「説教の講師は、顔よき。」

これは「春はあけぼの」の冒頭で知られる『枕草子』の一節である。現代語訳では「お経を説く僧侶はイケメンでなくちゃ。」となるのだが、確かに先生が魅力的であったほうが授業は楽しい！というのは1000年以上前から変わりない事実であろう。というわけで、登場する先生は「イケメン」とした。今回の企画に合うイラストレータの候補から選定を行った結果、纖細なイケメンを描くことで女性に人気のEN(@E898)氏を起用することにした。氏のファン（Xのフォロワー数：223,660人、2024年7月現在）にとっては、「ENさんのイラストが有名声優の声で喋る。」という点でも注目を集めた。

(ii) 先生のキャラクターデザイン

「メンカラ」という言葉を聞いたことはあるだろうか。アイドルグループのメンバーに個別の色が割り当てられていることがあり、これをメンバーカラー（略してメンカラ）と呼ぶ。まさに色の力を利用したもので、近年一般的になっている概念だ。このメンカラの考え方を応用し、先生達は赤青黄など、代表的な色を擬人化したようなキャラクタとした（図1, 3）。



図3『もっと教えて！色彩先生』メインビジュアル

第1作では虹の色に合わせて7色、第2作では学習内容が増えたこともあり、3色を追加して10色になった。さらに、性格は「色の連想」に基づいたものとして、これも実は色彩の勉強になっているのである。表1にキャラクタの一部を紹介する。

(iii) 声優の選定とキャラ付け

先生の声は今をときめく人気声優である梶裕貴さん（進撃の巨人 エレン・イエガーナなど）、下野紘さん（鬼滅の刃 善逸など）などを起用し、メインテナントの10～20代女性はもちろん、今まで色彩検定や色彩学と接点のなかった声優ファンからも興味を持ってもらえるようにしている。かつては「縁の下の力持ち」であった声優という職業だが、ここ最近はもはや「サブカルチャー」の範疇に収まらない存在になっている。話題性、情報拡散という側面からも心強い。

そして、実は声優の選定と担当キャラクタの性格には声優ファンの心をつかむ仕掛けがある。それは「普段あまり見ない役どころ」である。例えば第2弾『もっと教えて！色彩先生』で登場する琥白（こはく）先生は杉田智和さんが声を担当している。琥白先生は清潔感があり、清らかさの権化といったイメージ。一方の杉田智和さんはどちらかというと三枚目役を演じるイメージが強く、ファンにとっては「珍しい杉田さんを聞くことができた！」となるのである。

表1 先生達の名前や担当の声優、性格など（一部抜粋）

	【赤】 紅太郎（こうたろう）先生 CV. 梶裕貴さん。優しくて明るい笑顔がトレードマーク。頑張っている生徒を見ると思わず応援したくなる熱血な一面も。
	【青】 青斗（あおと）先生 CV. 石川界人さん。冷静沈着で理論派。いつもクールな印象だが、ふと見せるツンデレがたまらないという噂も。
	【黄】 黄虎（こうが）先生 CV. 江口拓也さん。派手な印象と喋り方で一見、講師には見えないが、授業はわかりやすいと意外に好評。
	【白】 琥白（こはく）先生 CV. 杉田智和さん。第二弾の『もっと教えて！色彩先生』で色彩学園の校長先生として登場。高貴でキレイなイメージの白がテーマカラー。
	【金】 金臣（かねおみ）先生 CV. 緒方恵美さん。最新の『教えて！色彩先生 UC』で登場。出自不明のボスらしき存在として登場。

3. 効果

(i) 受検者のモチベーション向上

数値化が難しいため、受検者アンケートやSNSのコメントから推測するしかないが、各SNSの数千のコメントを確認しているがほぼポジティブな反応であった（ネガティブな反応は10件未満）。主に下記のような内容が多く見られた。

- ・難しい事でも内容がスルスル入ってくる。
- ・難しくて諦めかけていたが、色彩先生のお陰で頑張れそう。
- ・もっと上の級を目指したくなった。

「資格試験+乙女ゲー」の構図は劇薬のようであると感じていたため、果たして薬となるのか、はたまた毒となってしまうのか、不安が無かったと言えば嘘になる。しかし、このようにポジティブな反応が大半を占めていたため、大変嬉しく思うとともに驚きもあった。

(ii) 色彩検定協会公式 SNS のフォロワー数増

定量的な効果としては、公式 X や YouTube のフォロワー数増が挙げられる。Xでの「フォロー＆リツイートキャンペーン」や YouTube での広告配信などの施策を実施したこともあり、表2のように大幅なフォロワー増を果たした。

表2 色彩先生キャンペーン、広告配信期間中のSNS
フォロワー数の推移

	X(Twitter)	YouTube
『教えて！色彩先生』 2022年4～5月	+7,282人	+16,272人
『もっと教えて！色彩先生』 2023年4～5月	+5,770人	+1,220人

(iii) 色彩検定、色彩学への興味・関心の醸成

色彩先生は YouTube というプラットフォームを媒体としたことで、気軽に色彩検定や色彩学の内容に触れることができるようになった。具体的な数字に落とし込むことは難しいが、少なくとも X の投稿や YouTube のコメント欄には、この動画がきっかけで色彩に興味を持った、気付きを得られた、という意見が多く見られた。色彩学というジャンルを知らなかつた、もしくは知っていたが学習するまでに至らなかつた層がこの動画に触れることで、興味・関心を後押ししたのではないだろうか。

更に、過去に色彩検定を受検したことがあり、再び色彩の勉強をしてみたいという意見も多数あり、いわゆる休眠顧客の呼び戻しといったことにも繋がっている。下記のような意見が見られた。

- ・色彩検定の受検予定は無かったが、声優さんに釣られて動画を見た。色についてわかりやすく学べた。
- ・ちょうど何か資格を取ろうと思っていたところ色彩先生に出会い、勉強したら面白そうだと思って色彩検定のテキストを買ってきました。
- ・今受検する方が羨ましい。色彩検定は昔受検したが、そのときに色彩先生があったら、もっと頑張れたはず。復習のために見たいと思う。

また、2024年公開の UC 級編については、2型色覚当事者自身のみならず、家族に当事者や高齢者がいる方からも次のような嬉しい反応があった。

- ・自分自身も2型色覚であるが「色を扱う先生（※『教えて！色彩先生 UC』に登場する金臣先生）自らが『特定の色が見分けづらい』という設定なのがとても良い。「実は先生もそうなんだよ」と言ってもらえる

のは、色の見え方で悩んでいる人たちにも励みになると感じた。

- ・家族の色の見え方についてサポートができればと思っていたが、とても勉強になった。

4. 最後に

広報活動を行う中で最も大切にしてきたテーマは「勉強は本来楽しいもの」である。しかし、いきなり教科書を渡され、読んでみろ！と言われても、そこに楽しさを見出せる人はごく少数であり、大半の方は冒頭で紹介したような感想になるだろう。これではせっかく興味を持った分野が「嫌な思い出」になってしまうし、勉強自体が苦手なものとして記憶に植えつけられることになる。まずはどんな形でもよいので、別の大好きなモチベーション（それが好きな声優やイラストレータであっても）を持つことが大切で、そこから小さな成功体験を積み重ねて初めて「この分野の勉強は楽しい！もっと専門的に勉強してみたい」というところまで至ることができるのでないだろうか。色彩先生で楽しく色彩検定、そして色彩学の勉強を続けていただき、業界が益々発展することを願っている。将来「『教えて！色彩先生』を見て色彩に興味を持った！」という研究者が現れることを密かに楽しみにしている。

5. 制作協力

素晴らしいコンテンツを制作いただいた2社とスタッフの皆様、EN 氏、キャストの皆様に対し、この場を借りて感謝の意をお伝えします。ありがとうございました。

- ・株式会社朝日広告社
- ・株式会社シースリーフィルム